

読み語り

令和7年2月28日



給食時間、毎日「読み語り」の時間があります。

今週読んでいるのは、「ふぶきのあした」(シリーズあらしのよるに⑥)木村裕一:作 あべ弘士:絵 講談社。

前回は、「フングリ コングリ 図工室のおはなし会」岡田淳:作絵 でした。

どちらの本も毎月1回「読み語り」に来て下さる三次市図書館金光さんから紹介していただいた本です。続きが気になるのか、給食後の休憩時間、校長室の前に置いてある本を手に取り、話の先を読み進めている子どももいます。

本の好みは、人によって「千差万別」。自分にあった本を自分で選び、「先がどうなる?」「自分と同じだ!」「えっ、そこでそんなことする?! そんなことになる?!」などと想像力を働かせ、「文字」だけで表現された世界(余白がたくさんある)に自分からかわり、本に親しみ、楽しめる人になれるといいですね。

大人の方へのおススメの本

「水車小屋のネネ」津村記久子 毎日新聞出版

家族からすすめられて読んだ本。自分が手に取るのは、やはり自分好みの本。分野や作者も偏りがち。その時、まわりの人からすすめられた本を読むと、新たな世界を知るきっかけにもなります。あわただしい毎日ですが、大人こそ本に親しみたいものです。

「水車小屋のネネ」はこんなお話、、、

身勝手な母親とその婚約者から逃れ、山間の町にやってきた18歳と8歳の姉妹。そこで出会ったのは様々な年代の人々と、おしゃべりなヨウム、ネネ。姉妹とネネ、周囲の人々が歩む40年間の物語。